



CONTENTS

日本食物繊維学会第19回学術集会の御案内	1
第19回学術集会開催および演題募集のお知らせ	2-3
News 日本食物繊維学会 第18回学術集会報告	4
News 日本食物繊維学会 学会賞受賞者紹介	5
News 日本食物繊維学会第18回学術集会 発表賞受賞者紹介	5
News 日本食物繊維学会 市民公開講演会報告	6
Topics 産学協議会の報告	7
編集委員会より	8

日本食物繊維学会 第19回学術集会の御案内

第19回学術集会長 青江誠一郎 (大妻女子大学)

思い起こせば、平成8年6月に日本食物繊維研究会が発足し、現理事長の奥先生とニューズレターや研究会誌を手作りで発行してきました。その後、活動は順調に拡大し、平成16年4月に日本食物繊維学会となりました。その間に、当時大妻女子大学の池上幸江先生が集会長となり、第7回学術集会が開催されました(平成14年11月1-2日)。昨年度は、仁愛大学で第18回学術集会が開催され、多くの演題が集まり、成功裏に終わりました。地方ならではのおもてなしを受け、集会長の谷先生と実行委員の先生のご尽力の賜物と感謝しております。また、昨年度の産学協議会で話題になりましたように、学会として食物繊維の定量法や栄養表示への適用など一定の考えをまとめました。さらに、ルミナコイド素材のエネルギー評価も素材数が増え、消費者庁に提案したところです(ホームページを参照下さい)。今後、本学会の役割は益々大きくなるものと思われれます。

さて、会員の皆様、賛助会員の皆様に支えられ、本年度は、第19回学術集会を開催できる運びとなりました。第19回学術集会は、平成26年11月29日(土)、30日(日)に大妻女子大学で開催します。久しぶりの都内での学術集会ですので会員の皆様におかれましては奮ってご参加下さい。今回は、シンポジウムを29日のみとし、一般演題のディスカッションの時間を多く取りたいと思います。また、特別講演として、昨年までFDAに在籍していました、Barbara Schneeman先生を招聘して、アメリカの食物繊維に関するヘルスクレームについて講演いただく予定です。日本においても、食品の機能性表示の規制緩和が予定され、興味深い内容かと思えます。また、シンポジウムでは、食物繊維の給源として古くから研究されてきた穀物の再発掘を目的として、“Cereal Fiber 研究の最前線”というテーマを取り上げたいと思います。少しでも穀物の研究者が増えてくれればと願っています。シンポジウムでは、ルンド大学のInger Björck先生を招聘して、穀物摂取と消化管ホルモン応答に関するヒトでのエビデンスを紹介してもらう予定です。30日午後には、市民公開講演会を大妻講堂で開催します。食物繊維の調理法のデモや腸と全身の健康の関係について講演いただく予定です。さらに、著名人を招いてトークセッションも企画中です。お時間のある会員の皆様には是非とも残って参加下さい。

第19回学術集会開催および演題募集のお知らせ

1. 第19回学術集会開催のご案内

(1) 日時：平成26年11月29日（土）、30日（日）

(2) 場所：大妻女子大学 大学校舎1階150教室
大妻女子大学 地下1階アトリウム（懇親会）

(3) 日程：

第1日 11月29日（土）

9：00～：一般演題発表

13：30～：評議員会、総会

14：30～：シンポジウム（公開）“Cereal Fiber 研究の最前線”

特別講演1 “Recent State of US Health Claims of Dietary Fiber”

Barbara Schneeman 先生（UC Davis）

基調講演 “Latest Evidence about Functionality of the Dietary Fiber of Barley and Other Cereals (tentative)”

Inger Björck 先生（LUND UNIVERSITY）

他シンポジスト2名を予定

17：30～：懇親会（アトリウム）

第2日 11月30日（日）

9：00～：一般演題発表

11：00～：

特別講演2 “Endless Frontier: Metagenomic and Metabolomic Studies of Dietary Fiber against Metabolic Syndrome (tentative)”

Zheng J. Chen 先生

(Univ. of Texas Health Science Center at Houston)

13：00～：一般演題発表

14：30～：発表賞授賞式

15：00～17：00：市民公開講演会（大妻講堂）

(4) 講演および討論

発表は液晶プロジェクターを用いて行います。本学術集会では質疑応答時間を長くし、各演題の持ち時間を15分（発表9分、質疑応答5分、交代1分）とする予定ですが、演題申込数によって持ち時間を変更することがあります。演題の発表日程、及び発表の詳細に関しては後日改めてご案内します。パソコンはWindows（Power Point2013）を用意致します。

(5) 総会および学術集会受付

受付は開始30分前より、大妻女子大学大学校舎1階150教室前にて行います。当日参加の方は、参加費（講演要旨集込み）をお支払いください。

(6) 参加費

- ・オンライン事前登録（銀行振込）<http://jdf.umin.ne.jp>（平成26年7月1日より受付開始）
正会員4,000円、学生会員2,000円、非会員5,000円、懇親会費5,000円（学生2,000円）
- ・当日受付
正会員5,000円、学生会員3,000円、非会員6,000円、懇親会費6,000円（学生3,000円）

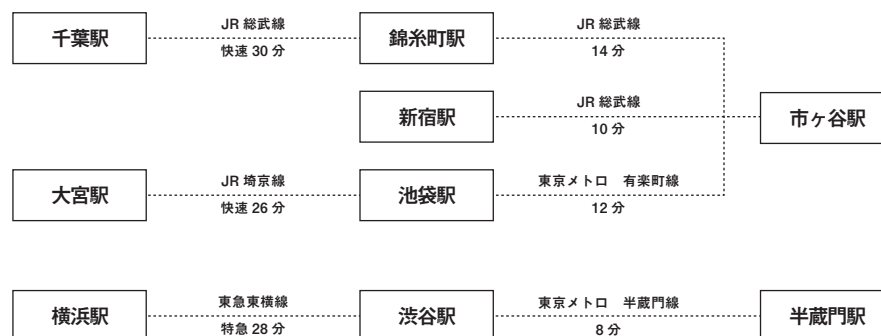
(7) 呼び出し、クローク、昼食、駐車場、宿泊等の手配など

- ・会場での呼び出しは行いません。また、クロークも設置しませんので荷物等は各自で保管して下さい。
- ・大学周辺には、飲食店やコンビニエンスストアが多数あります。
- ・事務局では宿泊等の斡旋を行いませんのでご了承ください。また、交通機関・宿泊の手配はお早めをお願いします。

(8) 学術集会会場への交通案内

駅からの道順は以下のホームページをご参照下さい。

http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/university/access/map_chiyoda.html



市ヶ谷駅下車	徒歩 10分
東京メトロ有楽町線 市ヶ谷駅下車 (A3 出口)	徒歩 10分
東京メトロ南北線 都営新宿線	徒歩 5分
東京メトロ半蔵門線 半蔵門駅下車 (5 番出口)	
東京メトロ東西線 九段下駅下車 (2 番出口)	徒歩 12分

2. 一般演題申込要領

(1) 申込期限

平成 26 年 9 月 27 日 (土) 必着のこと

(2) 申込

日本食物繊維学会ホームページより受付致します。

<http://jdf.umin.ne.jp/> (平成 26 年 7 月 1 日より受付予定)

(3) 講演要旨作成要領

日本食物繊維学会誌 18 巻 1 号ならびにホームページに掲載する予定です。

(4) その他

- 1) 発表者は本学会会員であることが必要です。
- 2) 演題の採否, 講演日時等はプログラム委員会にお任せください。
プログラムは学術集会前に届くよう発送の予定です。
- 3) 表彰に関する申し込み方法などの詳細はホームページに掲載する予定です。
適宜, ホームページ (<http://jdf.umin.ne.jp/>) の確認もお願い致します。

(5) 演題申込, 会場, 運営等に関するお問い合わせ先

【第 19 回学術集会実行委員会】

〒 102-8357 東京都千代田区三番町 1 2

大妻女子大学家政学部食物学科栄養学研究室 青江誠一郎 宛

Tel & Fax 03-5275-6048, E-mail : s-aoe@otsuma.ac.jp

(6) 入会等に関する問い合わせ

一般社団法人 日本食物繊維学会 事務局

〒 112-0002 東京都文京区小石川 5-24-3 株式会社同文書院気付

電話 : 03-3812-5151 Fax : 03-3812-8456

E-mail : jdf.office@luminacoids.jp

日本食物繊維学会 第18回学術集会報告

日本食物繊維学会第18回学術集会を終えて

谷 政八（仁愛大学人間生活学部健康栄養学科，第18回学術集会長）

平成25年11月23日と24日，仁愛大学にて日本食物繊維学会 第18回学術集会を開催させていただきました。学術集会を大きな問題もなく終えられたことに実行委員一同は安堵しております。まずはご協力いただいた日本食物繊維学会青江理事，倉沢理事，早川理事さらに学会事務局の方々にはお手を掛け有り難うございました。また，当日の運営に当たっては，仁愛大学人間生活学部健康栄養学科の教職員，学生諸氏に感謝いたします。

今回，充実したシンポジウムを企画していただきました，長崎県立大学の中村禎子先生，女子栄養大学の山田和彦先生，大妻女子大学の池上幸江先生，愛媛大学の岸田太郎先生，福井県食品加工研究所の小林恭一先生，福井県立大学の木元 久先生，福井大学の寺田 聡先生にもお礼申し上げます。開催時期は例年通りでしたが，仁愛大学ではすでに紅葉も過ぎ寒い時期にも関わらず，これまでの最大となる29題の一般演題と，145名の会員と市民講演会には200余名の参加をいただき盛会に終わりました。懇親会には，115名という想定を超えた方がご参加いただきました。地元の各蔵元からはお酒をご提供いただき山田副理事長の献杯から始まり互いの親交が深められました。また，2日間にわたり多数の飲料をご提供いただきました大塚製薬株式会社，福井ヤクルト販売会社，武生パレスホテルおよび松谷化学工業株式会社にお礼申し上げます。

今回の学術集会では，昨年に引き続き一般演題で多数の若手研究者の発表があり，活発な議論がなされました。特別講演では，食生活と消化器疾患のピロリ菌感染と胃・十二指腸疾患と言うこれまでに無かった臨床との接点を取り扱っていただきました。シンポジウムⅠでは，ルミナコイドと健康増進のテーマで事例が知られているものの未だその機構がはっきりしない，食物繊維による諸々の作用を参加者に再認識させました。またシンポジウムⅡでは，地元ならではの特産品のもつ健康機能について地元研究者の研究紹介など会員にとっても，今後の学会にとっても意義あるものであったと思います。奥理事長が謳われる「ルミナコイド」という新たな食物繊維の概念は，従来の難消化性糖質のみではない新たなものでこの間口の広がった食物繊維学会の会員が，さらに学術集会へより多く集まるような企画をこれからも進める必要があるように思います。最後に理事会のご理解により仁愛大学の学生のために学術集会の聴講を許可していただきましたことに感謝申し上げます。



日本食物繊維学会 学会賞受賞者紹介

平成 25 年 11 月に開催されました第 18 回学術集会におきまして、奥理事長から受賞者に表彰状と盾が贈られました。受賞された西村先生にお祝い申し上げます。

なお、学会賞の副賞に支援を賜りました松谷化学工業株式会社に深謝いたします。

受賞者：西村直道さん（名寄市立大学）

受賞研究

「ルミナコイドによる大腸内発酵制御を介した生活習慣病発症抑制に関する研究」

食物繊維学会 第 18 回
5年11月23日(土・祝日)～24日(日) 会場：仁愛大学A



西村直道さん（左）と奥理事長

News

日本食物繊維学会 第 18 回学術集会発表賞受賞者紹介

平成 25 年 11 月 23 日・24 日に仁愛大学にて開催されました第 18 回学術集会において、発表賞に応募のありました演題の中から、以下の 3 名が受賞されました。

受賞されました方々にお祝い申し上げます。



発表賞受賞者（左から、小村さん、田中さん、伊藤さん）と奥理事長

受賞者：小村美香さん（静岡大学大学院農学研究科）

一般講演 演題名

「漬物由来乳酸菌 *Lactobacillus plantarum* TK61406 の摂取はラット大腸においてビフィズス菌を増加させる」

共同発表者：西尾翔子¹、河本哲宏¹、日野真吾²、森田達也²
(¹東海漬物(株), ²静大・院・農)

受賞者：田中誠也さん（北海道大学大学院農学院）

一般講演 演題名

「ラット小腸における難消化性二糖 Melibiose の水溶性ケルセチン配糖体吸収促進作用」

共同発表者：篠木亜季、原 博（北海道大・院農）

受賞者：伊藤千弘さん（岐阜大学大学院応用生物科学研究科）

一般講演 演題名

「食物繊維摂取による小腸絨毛の形態変化機構の解明」

共同発表者：石川愛美²、北口公司^{1,2}、金丸義敬^{1,2}、森雄一郎³、山元宏貴³、伊神孝生³、矢部富雄^{1,2}
(¹岐阜大・院・応生科, ²岐阜大・応生科, ³三基商事(株))

平成 25 年度日本食物繊維学会市民公開講演会実施報告

平成 25 年度の市民公開講演会は、11 月 24 日（日）仁愛大学 A 号館（303 号室）において『食物繊維から見る「食と日本人の知恵」』という講演テーマで開催されました。講師には、東京農業大学名誉教授 小泉武夫先生をお招きし、谷 政八 第 18 回学術集会長による開会后、奥 恒行 理事長の挨拶に続いて講演が行われました。小泉先生独特の話術で現代の食にまつわる諸問題についてユーモアを交え話されました。日本人は、ごく近年まで食物繊維が豊富で質素な食生活を維持してきました。それを「和食の基本」と位置付けて、主に①根茎、②菜類、③青果、④山菜・茸、⑤豆類（特に大豆）、⑥海藻、⑦穀類（米や麦、雑穀）の 7 つの食材を巧みに調理して食べてきました。これらの食材成分の大幅は食物繊維であり、食生活を通して摂取することにより心と体を強健に保持してきました。ところが次第に食生活が欧米化してくると食の中心が炭水化物からタンパク質、脂肪型に移って、和食の重要さも希薄化し、総じて食物繊維摂取量も少なくなりました。それまでの日本人の食生活では見られなかった生活習慣病が増え続けています。日本人にとって食物繊維の摂取が、いかに大切かを具体的に述べられました。

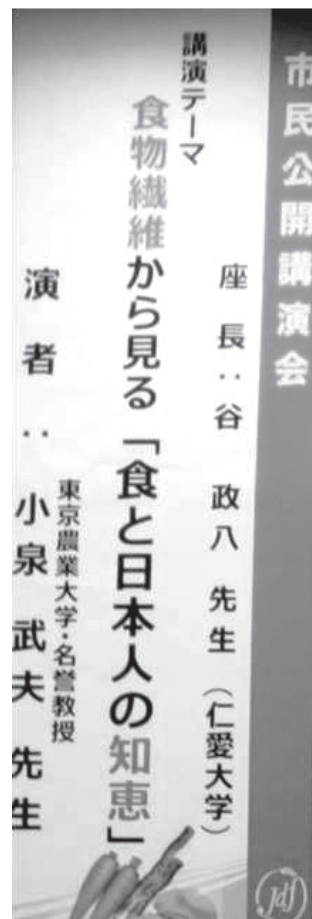
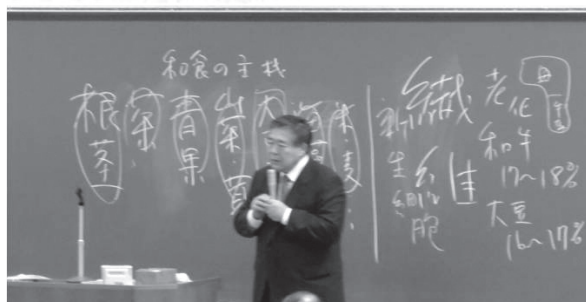
今回は 202 名の参加者で、関心のある一般市民、小中高校の教員、福井県食生活改善推進員、栄養士、学生による活発な質疑があり、盛会な講演会となりました。集会長による謝辞の後、閉会となりました。

今回の講演会企画には、学校法人仁愛学園共催と地元自治体、医師会、薬剤師会、栄養士会、福井県健康管理協会並びに地元報道各社の後援をいただきました。また多くの地元企業様の協賛と飲み物のご提供をいただき謹んで感謝申し上げます。

（谷 政八 記）



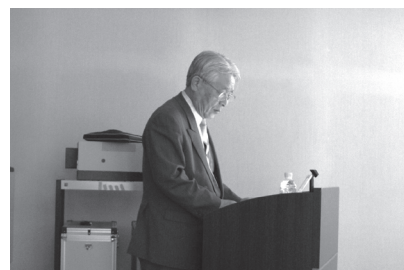
維学会 第 18 回学術集会
祝日～24日(日) 会場：仁愛大学A号館A303号（大講義



産学協議会の報告

平成 25 年度の産学協議会が平成 26 年 3 月 20 日（木）に（独）国立健康・栄養研究所において開催されました。青江総務担当理事の開会挨拶に続き、最初に消費者庁増田利隆氏により「栄養表示の義務化について」ご講演頂きました（左写真）。食事表示法に基づいて現在進行している様子を資料に基づいて説明され、本年夏頃部会案に対してパブリックコメントを求めること、平成 27 年 6 月末頃までに施行のスケジュールが決まるとのことであった。食物繊維については、表示の義務はないが、摂取不足は心筋梗塞のリスク増があることから「消費者における表示の必要性」があり、“推奨”という位置づけとのことでした。次いで、（独）国立健康・栄養研究所松本輝樹氏により「食物繊維の分析法の選択基準について」ご講演頂きました（中央写真）。種々の食物繊維定量法の特徴と、適用について要領よくまとめたパワーポイントを用いて明快な説明があり、多くのものについては、現状の測定値で良いものの、対象によっては食物繊維定量法の選択に気をつけるべきであることを実際の例を挙げつつ説明されました。最後に、エネルギー評価検討委員会委員長で本学会理事長の奥 恒行先生により「第 3 回目のルミナコイド素材のエネルギー評価結果と今後の取り組み」について第 1 回、第 2 回の結果を含めてご講演頂き、今後は希少糖への対応のために検討すべきことの紹介がありました（右写真）。これらの結果については、ホームページや学会誌に掲載予定となっています。各講演会の質疑においては活発な意見交換が行われました。また、講演会終了後の同研究所食堂における懇親会においては、おいしい料理とお酒類、とくにいつもながらの松谷化学工業（株）寄贈のワインに酔いしれながらの歓談となりました。

最後に会場のご提供と運営にご協力頂きました石見先生をはじめとする（独）国立健康・栄養研究所の皆様にご礼申し上げます。



平成 26 年度市民公開講演会

日時：平成 26 年 11 月 30 日（日）15：00～17：00
場所：大妻女子大学 講堂
主催：日本食物繊維学会 共催：日経ヘルス
特別協賛：（株）はくばく 後援：アメリカ穀物協会
参加費：無料（事前申込制）
問い合わせ先：日経 BP 社 生活情報グループ TEL：03-6811-8218

市民講座①

食物繊維の働きと重要性について - 基礎栄養の立場から -

大妻女子大学家政学部 青江誠一郎

市民講座②

食物繊維が豊富な食材を生かした調理法、食べ方

料理研究家 浜内千波

市民講座③

食物繊維が腸から全身の健康・美容に及ぼすうれしい効果

慶應大学先端生命科学研究所 福田真嗣

トークセッション

編集委員会より

ニュースレター No.37 をお手元にお届けします。第 19 回の学術集会は、青江先生が学術集会長になられて大妻女子大学において開催されます。学術集会では、一般演題に加え、Barbara Schneeman 先生による特別講演、(公開)シンポジウムとして“Cereal Fiber 研究の最前線”が計画され、Inger Björck 先生もシンポジストとしてご講演になられます。興味ある内容ですので、会員はもちろん会員外の多くの方にご参加頂ければと存じます。(早川)

論文投稿のお願い

現在、投稿論文数が少なく、次号からの発行に苦勞しております。発表された内容がまとまりましたら、論文等を投稿いただきますようお願い申し上げます。総説、報文、ノート、論壇、資料、特別寄稿いづれも歓迎いたします。是非とも投稿をお願いします。

平成 26 年度会費納入のお願い

当学会は、学術集会、公開講演会、学会誌、ニュースレターの発行などの運営を会費に依存しております。平成 26 年度の会費を平成 26 年 7 月 31 日までに同封の振込用紙でご納入くださいますようお願いいたします。なお、お振込みの際には、振込用紙通信欄に「平成 26 年度年会費」と会員番号のご記入をお願いします。会員番号は封筒の宛名ラベル右下に印字してあります。

平成 26 年度年会費

正会員	8,000 円	学生会員	2,000 円
団体会員	10,000 円	賛助会員	70,000 円 (一口)

卒業・就職などで学生会員でなくなられた方は同封の会員名簿変更届けにてお知らせください。

会員状況：平成 26 年度 4 月 30 日現在

●会員数	207 名	(学生会員 24 名)		
●賛助会員	41 社	●団体会員	10 団体	●名誉会員 8 名

【賛助会員】

株式会社 ADEKA
天野エンザイム株式会社
伊那食品工業株式会社
イングレディオン・ジャパン株式会社
株式会社 Pi ニュートリション
MC フードスペシャリティーズ株式会社
塩水港精糖株式会社
大塚食品株式会社
大塚製薬株式会社
株式会社荻野商店
株式会社カーギルジャパン
花王株式会社
一般社団法人菓子・食品新素材技術センター
サントリーウエルネス株式会社
三和澱粉工業株式会社
株式会社 J-オイルミルズ
清水化学株式会社

昭和産業株式会社
信越化学工業株式会社
全国精麦工業協同組合連合会
太陽化学株式会社
ダニスコジャパン株式会社
DSP 五協フード&ケミカル株式会社
株式会社東洋新薬
永倉精麦株式会社
日清食品ホールディングス株式会社
日清ファルマ株式会社
日本ケロッグ合同会社
日本食品化工株式会社
日本甜菜製糖株式会社
日本澱粉工業株式会社
日本バイオコン株式会社
ネキシラ株式会社
株式会社はくばく

株式会社林原
株式会社ファンケル
フジ日本精糖株式会社
松谷化学工業株式会社
雪印メグミルク株式会社
ロケットジャパン株式会社
和光純薬工業株式会社
(五十音順)



日本食物繊維学会

Newsletter No.37

発行日：2014 年 5 月 30 日
発行人：(社)日本食物繊維学会理事長 奥 恒行
編集人：海老原 清、早川 享志
印刷所：江戸クリエート株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-43-16
成田ビル

(社)日本食物繊維学会事務局
株式会社同文書院 気付
〒112-0002 東京都文京区小石川 5-24-3
E-mail: jdf.office@luminacoids.jp
TEL: 03-3812-5151 FAX: 03-3812-8456
URL: <http://jdf.umin.ne.jp>